

令和3年度

中国研 主務者提案文書

研究を「広め」「深める」ために
With コロナ時代の
「今、私にできること」を精一杯

第1回代議員会・総会資料

岐阜県中国研 令和2年度の振り返りと 令和3年度活動計画

令和3年 5月31日

本荘中学校 伊藤 雄樹

Withコロナ時代に、研究を「広め」「深める」ために 今、できることとは？

平成29年度に実施された、「全国大会」。

この全国大会の成果を「広げる」「深める」をキーワードに、中国研は活動を行ってまいりました。

平成30年度には、『中国研ホームページを活用した情報共有』を開始し、全国大会の指導案や授業資料を、全て中国研のホームページから閲覧可能にするインフラを完備しました。また、全国大会の実践を礎に、平成30年度以降に実践された数々の授業についても、指導案・授業資料の提供にご協力いただき、すでに閲覧可能な実践事例は、10以上となっております。

このようにして、全国大会の成果を「広げる」活動を行ってまいりました。

また、令和3年度に実施される「岐阜県中学校国語科研究部会飛騨地区大会」に向けて、三輪太雄校長先生（高山市立高山西小学校）・飛騨大会実行委員 野島将也先生（高山市立日枝中学校）を中心とし、令和元年8月6日に、高山市一之宮公民館で「飛騨地区中学校国語科研究会 夏季統一研究会」として、飛騨大会の準備会を実施していただきました。

右側の写真にもあるように、当日は、午前中に「明日の国語を考える会」として、日々の授業づくりについての勉強会、午後からは、研究の共通理解を図る研究部会や、飛騨教育事務所今井則雄先生より、今後の研究についてのご示唆を頂きました。

令和2・3年度は、この「岐阜県中学校国語科研究部会飛騨地区大会」を、中国研が毎年実施している「中国研夏季ゼミナール」として位置付け、全県をあげて、「オール岐阜」の精神で、飛騨大会での研究を盛り上げていきたいという所存でした。

しかしながら、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で、ほぼすべての活動が停止に追い込まれました。

それでも、本年度開催の「岐阜県中学校国語科研究部会飛騨地区大会」に向け、飛騨地区の先生方は、すでに指導案・実践発表の作成・検討、運営のご準備を進めて下さっています。

昨年度末には、右側下2枚の写真のように、リモートアプリを活用し、「運営部」「話す・聞くこと部会」「書くこと部会」「読むこと部会」「言語文化部会」の5つの部会に分かれ、準備を進めてまいりました。

それぞれ、当日の運営についてや、指導案の検討を、飛騨地区の領域部長さん・当日の授業者・県の領域部長とがタッグを組み、行ってまいりました。

現在もなお、猛威を振るう新型コロナウイルスですが、研究を「広め」「深める」ために、今私たちができることを、精一杯取り組み、飛騨地区の先生方の一助となればと思っております。



令和元年度「飛騨地区中学校国語科研究会 夏季統一研究会」として、飛騨大会の準備会を行った様子



令和2年度「飛騨大会準備会」として、リモートアプリを活用して、準備会を行った様子

令和3年度 中国研活動計画

日時	活動内容	留意点
5月18日 (中止) オンラインでの書類提案に切替	第1回 代議員会および研究部総会 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止 →中国研ホームページを用いての書類提案に切替 【ホームページに掲載するもの】 ① 中国研会長あいさつ（石橋佳之会長） ② 本年度の活動計画提案（主務者） ③ 令和2年度会計報告及び令和3年度予算案（会計） ④ 令和3年度実施の飛騨大会について （飛騨大会実行委員） ⑤ 機関紙「ぎふこくご」について（広報） ⑥ 「ぎふこくご賞」論文について（研究副総括） ⑦ 令和3年度の研究について（研究総括） ⑧ 各領域の研究構想（各領域部長） ⑨ 各郡市の代議員について（総務）	※中止の連絡と一緒に送付したアンケートフォームを用いて、代議員・研究部員の方には、ホームページに提案書類を掲載したお知らせを、メールにてお伝えする。
各部会で部長が集約（随時）	指導等の授業資料を 情報部 岸 浩道先生にメールで送付	メールアドレス beans@tcp-ip.or.jp
8月3日（火） 飛騨地区の領域ごとに開催 オンラインへの切り替えの可能性もあります	「中国研夏季ゼミナール」として、「飛騨地区中学校国語科研究協議会（飛騨大会の指導案検討・実践発表の検討会）」の実施・運営 内容 「飛騨大会準備委員会」 ☆飛騨大会における「指導案」検討 ☆飛騨大会における「実践発表」検討	この飛騨大会準備委員会を、中国研夏季ゼミナールとして扱う ☆令和3年度は、飛騨大会に向けての取り組みの一環として、 飛騨地区で実施 します。 ☆密を防ぐために、参加者を飛騨地区の先生方と、中国研役員のみと制限させて頂く可能性があります。 （現在その方向で考えております） ☆新型コロナウイルスの状況によって、オンラインに切り替える可能性があります。
10月22日（金）	岐阜県中学校国語科研究部会 飛騨大会	☆詳細は別紙
12月下旬	第2回「明日の国語を考える会」の運営	☆オンラインでの開催を予定しています。
12月下旬	1年間の研究の歩みを「ぎふこくご」にまとめる執筆活動（主務者・研究総括・研究部長・飛騨地区の各部会の方が実践報告）	☆飛騨大会では研究紀要は作成せず、この「ぎふこくご」で飛騨大会成果・課題の報告を行います。
1月中旬 役員会	第2回役員会 ☆令和4年度の活動の方向の確認 ☆ぎふこくご賞の審査	☆「ぎふこくご」賞を本年度は実施いたします。詳細は別紙をご覧ください。
2月2日（水）	第2回 代議員会（午前） ☆令和3年度の活動報告 ☆令和3年度の代議員引継ぎについて ☆ご指導（岐阜教育事務所） 第2回 研究部総会（午後） ① ぎふこくご賞の表彰および、受賞者の方の発表 ② における役割分担 来年度の研究部員継続のお願いと確認「ぎふこくご」の配布による、研究報告	現在のところ開催は、現在の岐阜市教育研究所を予定しております。 ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインまたは、書類提案の形に切り替えます。

「中国研ホームページ」への資料提供のお願い

飛騨大会に向けて、私たち研究部ができることは、「実践例を積み重ね、指導案の作成・検討を行う時、『以前このように実践してみたけど、その時は〇〇』と、実践をもとにして、精度を高めていくこと」ではないかと考えました。そのために、本年度も昨年度同様、各研究部で行った実践を是非ご提供頂き、本年度・来年度中に行われる指導案作成・検討に向けての土台としていきたいと考えています。
現在閲覧可能なものだけでなく、随時、ホームページにおける情報提供を推進してまいります。

【手順】

①



Web上のサーチエンジンで、「ぎふこくご」をキーワードに検索

②



「第46回 全日本中学校国語教育研究協議会岐阜大会」でホームページにアクセス

③



ホームページ左上の「授業資料はこちらより」をクリック

④



「すぐに授業資料がみたい」の横の赤い円をクリック

⑤



希望のものをクリック

⑥



現在、全国大会授業関係の全てのデータの閲覧が可能です。随時実践をアップロードしていきます。

※キーワードが「ぎふこくご」で出てこない場合は、アドレス欄に「kokuغو.chu.jp」と入力して下さい。

令和3年度 中学校国語科研究部会飛驒大会 大会要項

- 日時 令和 3年10月22日 (金)
- 実施方法 リモートアプリ「Zoom」を用いたオンライン会議

日程 (予定)

13:20~14:00	参加者全員が、全体会用のZoomミーティングに接続をする。
14:00~14:40	全体会 <ul style="list-style-type: none">・ 県中国研会長 挨拶・ 基調提案 (県中国研 小宅 陽久研究総括 より)・ 飛驒地区の取組の紹介 (飛驒大会実行委員より)・ 指導助言 (岐阜県教育委員会 課長補佐)
14:40~15:00	参加者は全体会用のZoomミーティングから、接続を一旦切る。その後、参加者は、参加する分科会 (話す聞く・書く・読む・言語文化) の4つのいずれかに接続をし直す。
15:00~16:00	分科会 <ul style="list-style-type: none">・ 研究構想の説明 (中国研 県研究部長)・ 実践発表 (飛驒地区研究部長および授業者)・ 質疑応答及び討議・ 指導, 講評 (指導主事) ※分科会が終わり次第解散

参加申し込み方法

後日県中国研主務者から配布する「第1次案内」などに、アンケートフォームを添付する。

そのアンケートフォームで、QRコードを読み込み、参加者が各自申し込みを行う。

その際にメールアドレスを入力する。

そのアドレスを用いて、下記の配布資料や、ミーティングID・パスワードなどの配布を行う。

事前配布資料

(上記の「参加申し込み方法」で登録したメールアドレスを通して、クラウドでの資料共有での資料配布を行う。同時に中国研ホームページでの公開を行い、資料配布を行う)

- ① 研究全体構想 (県中国研研究総括)
- ② 領域ごとの研究構想 (県研究部長)
- ③ 飛驒大会指導案および単元構想図 (領域別)
- ④ 当日の実践発表資料 (全体会および領域別)

※研究紀要は作成しない。

ただし、年度末に発行される中国研機関紙「ぎふこくご」に研究のあゆみ (成果と課題等) を掲載する。

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10 月				
1	木	熊崎 ☑名簿一覧作成 ☑組織一覧の再編 ☑第一回総会資料準備 ☑市村の部長を把握。 ☑文化会館キャンセル	1	■中国研役員会 5月6日(木) 日枝中 中西校長 佐藤校長 金子研究部長 熊崎 ・当日のもちかた ・当日までの方向 などの検討	1	火		1	木		1	水		1	金	
2	金		2		2	水		2	金		2	木		2	土	
3	土		3		3	木	準備委員会	3	土		3	金		3	日	
4	日		4		4	金	☐プレゼンの交流 日枝中	4	日		4	土		4	月	
5	月		5		5	土		5	月		5	火		5	火	
6	火	☐夏季統一研究日の 会場予約（一宮公民館8/?） ☐飛驒大会当日の運営方法を最終決定する。	6	木 高山市総会 / 中止 高山市教研 / 延期	6	日		6	火		6	水		6	水	
7	水		7	金		7	月		7	水		7	木		7	木
8	木		8	土		8	火		8	木		8	金		8	金
9	金		9	日		9	水	第一次案内発出？	9	金		9	土		9	土
10	土		10	月		10	木	①総会 ②評価について学ぶ ③指導案の見直し	10	土		10	日		10	日
11	日		11	火		11	金		11	日		11	月		11	月
12	月		12	水		12	土		12	月		12	火		12	火
13	火		13	木		13	日	会場：国府中 必要なもの ☐テレビ 市教研なので高山市の部長（新井先生）が野島先生と打ち合わせを行う	13	火		13	水		13	水
14	水		14	金		14	月		14	水		14	木		14	木
15	木		15	土		15	火		15	木		15	金		15	金
16	金		16	日		16	水		16	金		16	土		16	土
17	土		17	月		17	木		17	土		17	日		17	日
18	日		18	火	中国研総会芥見 / 中止	18	金	高山市市教研 評価について	18	日		18	水		18	月
19	月		19	水		19	土		19	月	海の日	19	木		19	火
20	火		20	木		20	日		20	火		20	金		20	水
21	水	※文化会館ホールキャンセルの締め切り	21	金		21	月		21	水		21	土		21	木
22	木		22	土	☐当日の在り方 ☐当日までの見通し ☐組織編成 ☐授業者について 参加者 石橋会長 伊藤主務 中西校長 中飯田校長 飛驒領域部長 4名 熊崎	22	火	下呂市市教研	22	木		22	日		22	金
23	金		23	日		23	水	領域部長および授業者は、県の部長らと連絡を取りつつ、指導案を仕上げる。	23	金	締め切り	23	月		23	土
24	土		24	月		24	木	領域部長はプレゼンを仕上げる（本番授業の内容以外）	24	土	指導案提出先 金子・熊崎	24	火		24	日
25	日		25	火		25	金		25	日	プレゼンCD提出先 熊崎→金子	25	水		25	月
26	月		26	水		26	土		26	月		26	木		26	火
27	火	中国研役員会 zoom 熊崎	27	木	準備委員会 ZOOM	27	日		27	火		27	土		27	水
28	水		28	金		28	月		28	土		28	日		28	木
29	木	昭和の日	29	土		29	火	締切日 7月23日(金)	29	日		29	水		29	金
30	金		30	日		30	水		30	月		30	木		30	土
			31	月					31	火					31	日

令和3年 飛驒中国研 組織一覧

飛驒大会実行委員長 北稜中学校 中西 史子校長

副実行委員長：中島直子校長，中飯田桂山校長(話聞) 梅田明宏校長，佐藤義晃校長(書)
石原啓悟教頭，武田由香里教頭(読) 水野暁子教頭，道上修身教頭(言)

準備委員：代議員 新井(高山市)・野畑(飛驒市)・金子(下呂市)・小林(白川村)・熊崎

【 研究部 】

研究部長 (金子 紀之 : 竹原中)

<話す・聞く部会> (国府中学校)

部長	志洞 功	北稜中
授業者	新井 良太	国府中
部員	新井和佳奈	日枝中
部員	熊崎 陽一	中山中
部員	田口 幹大	宮 中
部員	金井 直子	国府中
部員	澤上 由枝	古川中
部員	青木麻由美	萩原北中
部員	江間 孝英	金山中

<書くこと部会> (松倉中学校)

部長	荒井 貴行	久々野中
授業者	佐藤 智貴	松倉中
部員	林 正	松倉中
部員	矢嶋 廣大	松倉中
部員	野首 章吾	中山中
部員	森本 恵美	山之村中
部員	波多野稜佑	萩原南中
部員	新井 圭太	金山中
部員	田中 彩子	白川郷学園

<読むこと部会> (日枝中学校)

部長	上條 亘	下呂中
授業者	川原 秀登	日枝中
部員	藤垣 誠	日枝中
部員	青木 春日	朝日中
部員	北村 知里	古川中
部員	村瀬 元規	神岡中
部員	大溝 淳司	小坂中
部員	梅田麻優子	下呂中

<言語文化部会> (東山中学校)

部長	西岡 隆行	中山中
授業者	紺谷 篤	東山中
部員	池田 えみ	東山中
部員	新谷 泰浩	丹生川中
部員	野村 典之	丹生川中
部員	小谷 史征	古川中
部員	今村 博一	萩原南中
授業者	小林 雅士	白川郷学園

【 運営部 】

運営部長 (新井和佳奈 : 日枝中)

部員	○金井 直子	国府中
部員	○矢嶋 廣大	松倉中
部員	○新井和佳奈	日枝中
部員	○池田 えみ	東山中
部員	田中 彩子	白川郷

※○は会場校の担当者です。

■組織をつくるにあたって

- ・前回大会「岐阜県大会」のスローガンであった「オール岐阜」の精神を引き継ぎ、「オール飛驒」で臨むため、飛驒地区中学校国語科の先生方全員で研究を進める。
- ・飛驒大会当日は、領域ごとに発表をする。
- ・便宜上【運営部】には、公開授業を行う5校の先生方の内、それぞれ1名に担っていただく。
- ・【研究部】では、県の研究部員に所属している先生の先生方は優先的にその部会に所属していただく。
- ・県の研究部員でない先生方は、空いている部会に入ってください。
- ・授業者の先生方は、各校に割り当てられた領域の研究部員になっていただく。
- ・実践発表者は各領域部長の先生方に受けもっていただく。

令和3年5月20日現在

学習指導要領改訂において、学校現場に求められていること（学習指導要領解説 総則編より）

- ・社会構造や雇用環境は、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、情報を再構築していくなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。
- ・生涯にわたって学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ること。
- ・学校全体として、学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントに努めること。

**令和3年度全面実施の
学習指導要領 国語科の目標**

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

岐阜県全体としての生徒の実態

- ・平成30年7月26日に公開された『平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について』によると、平成30年度の全国学力学習状況調査では、「国語Bは、全国の平均正答率を上回る数値で推移している。」
- 「国語Aは昨年度までは、全国の平均正答率を上回っていたが、今年度は同程度である」と述べられており、知識・技能の定着状況や、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力は概ね身に付いているといえるが、国語Aについては、全国平均同程度に変化している。
- ・全体としては、全国平均を上回ってはいるが、依然平均点の半分に満たない生徒は1割程度存在する。
- ・生徒質問紙「国語の勉強は好きだ」の質問に対して、「当てはまる」と答えた生徒は、21.4%、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、「当てはまる」と答えた生徒は、27.1%である。このことから、正答率の高さとは裏腹に、「国語が好きだ」・「国語は分かりやすい」と感じている生徒の割合や、成就感を感じている生徒の割合は低いといえる。(平成29年8月28日に公開された『岐阜県発表資料』による。平成30年度には同設問なし)

【願う生徒の意識と姿】

- ・国語の学習に対して、魅力や必然性を感じ、主体的に学習課題の解決に向かうことができる生徒
- ・単位時間の授業の中で、確実に「生きてはたらく言語能力」に掲げた力を身に付けている生徒
- ・「確かに分かる・できる」「前よりよくなった」という実感をもち、次時への学習意欲を高めることができる生徒

研究主題 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

〈仮説〉

- ①学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「生きてはたらく言語能力」とは何かを明確にし、
- ②「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」「知りたい」(＝楽しい)と生徒が願うような魅力的で、必然性のある教材開発を行い、
- ③講義式のみでなく、生徒が主体的・対話的に学べる学習形態・学習方法・学習過程とは何かを見極め、適切に指導
- ④全体指導以外にも「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服するための手立て」を位置付けることで、全ての生徒に学びを確保し、
- ⑤単位時間の学習の中で、「確かに分かる・できる」・「前よりよくなった」という実感をもつことができる場を位置付け、次時の学習への意欲を高めることができれば **【願う生徒の意識と姿】**に記述した生徒になるだろう。

〈研究内容〉

研究内容① 指導計画の工夫

- (1) **実践の再現性を高めるための、指導事項と指導計画を組み合わせた「生きてはたらく言語活動一覧表」の作成**
 - ・令和3年度全面実施の学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「この教材でこそ付けたい『生きてはたらく言語能力(指導事項)』とは何か」を明確にした上で、指導事項と単元指導計画を組み合わせた指導計画を作成する。
 - ・教員誰もが見た時に、「この指導計画なら、自分にもできそうだ」と思える再現性の高い指導計画を作成する。
- (2) 生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発
 - ・「やりたい」「やらなければならない」といった生徒の意欲を喚起することができるような教材開発・題材開発の工夫
 - ・国語の授業で身に付けた力が、社会生活・他教科につながる力を育む言語活動を仕組むことができるようにする。

研究内容② 指導・援助の工夫

- (1) **生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫**
 - ・「教師 対 生徒」の講義式の学習だけでなく、「生徒 対 生徒」等の「主体的・対話的な深い学び」になるために、どのような学習形態をとるとよいかを研究する。(対話の種類の研究)
 - ・交流する前の自分と、交流した後の自分とに変容があることが必要。その為、交流するのにも、どのような交流の仕方をするのか、その方法を研究する。(対話の方法の研究)
 - ・作文の授業を例に取ると、「○○という方法で書きましょう」と教え込むのではなく、2種類の作文を提示し、「どちらの作文に説得力がある？そればなぜか？」と問いかけ、その理由を発見するような、「発見的な学習をする」スタイルを目指すために、どのような学習過程をとると良いのかを研究する。(課題解決に向かうための方途の研究)
- (2) **「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫**
 - ・評価規準に達することが難しいと考える生徒への「苦手を克服するための手立て」と、自力で評価規準に達するだろうと想定される生徒のための「得意を伸ばす手立て」を明確にした授業づくりをする。

研究内容③ 評価の工夫

- 生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫
 - ・「確かに分かるようになった・できるようになった」・「前よりよくなった」という実感をもつことができる場を工夫し、次時への意欲を喚起する。そのことが、「国語が楽しい」「国語は分かりやすい」「国語をまたやりたい」という生徒の思いを生み出す。

A 話すこと・聞くこと部会 令和3年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 恵那市立恵那東中学校 小島 光太郎

1 今年度の研究方向

令和3年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎言語活動に魅力を感じながら、学習の意義を自覚して見通しをもち、主体的に学ぶ姿
- ◎目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、さらに別の場で生かそうとする姿

令和3年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成 ～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・指導事項を効果的に身に付けさせるとともに、生徒が「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」と思うようなテーマの設定を工夫することで、生徒が主体的に学習に取り組みながら、効果的に力を身に付けていくであろう。
- ・言語活動を通して生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化して描き、学習する意義を生徒に理解させながら見通しをもって学習させることで、焦点的な指導が可能となり、生徒は目的や場面に応じて適切に表現する力を身に付けるであろう。

(1) 指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と、岐阜県全域における「中国研ホームページを活用した情報共有」の推進
 - ・指導計画の段階で、指導事項と照らし合わせながら言語活動の完成形をより具体的に描く。
 - ・その中で生徒に「付けたい能力」を身に付けさせるために、どのような姿が見られたらよいのかという具体的な姿を明確にする。(黒板写真・授業資料の共有)
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
 - ・「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」と思うような魅力あるテーマ設定を考える。さらに、そのテーマが、指導事項を指導するために適切なテーマであるかどうかを検討する。

(2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・課題化までに、必然を感じさせるような効果的な導入の工夫をする。
 - ・効果的なモデル提示の在り方を工夫する。
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手だての工夫
 - ・うまくできない生徒ができるようになるための「苦手を克服するための手立て」はもちろん、得意な生徒がさらに上のレベルを目指せるようにするための「得意を伸ばす手立て」も考える。

(3) 評価の工夫

生徒自身が50分間での自己の高まりを実感することができる場の位置付け

- ①学習活動の中での自己の姿を客観的に知り、評価できるような音声言語教育の評価の在り方を工夫する。
(ビデオカメラやICレコーダー、タブレットといった機器の効果的な活用)
- ②生徒の習熟度を効果的に評価する「場」と「方法」を工夫する。

B 「書くこと部会」 令和3年度の研究構想

書くこと部会部長 可児市立東可児中学校 梅田 佳宏

令和3年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎「もっと知りたい」「書きたい」と魅力や必然性を感じ、見通しをもって主体的に学習に向かう姿
- ◎論理の展開や表現の仕方、効果について考えたり、吟味したりして、自分の考えを書く姿
- ◎対話や議論を通じて、自分のものの見方や考え方を広げ、自分の表現に生かしていく姿
- ◎「こうすると～な文章が書ける」「確かによくなった」「もっと～な書き方を知りたい」と実感をもつことができる姿

令和3年度 「書くこと」部会 研究主題

相手，目的や意図，場面や状況に応じて， 考えが伝わる文章を書く能力の育成 ～論理の展開や表現の効果を考え，工夫して書くことができるための指導の在り方～

研究仮説

- ・「この題材・この時間でしか付けることができない力」とは何かを明らかにした上で、指導事項を明確にし、魅力や必然性のある題材を設定すれば、主体的に学習に向かう姿を育成することができる。
- ・例文の比較などから得た自分の考えをもとに、仲間との対話や議論を通して、論理の展開、表現の仕方や効果について考えたり吟味したりする言語活動を意図的に仕組み、個に応じた指導・援助を行えば、自分の見方や考え方を広げ、伝えたい内容を工夫して書く能力を育成することができる。

(1) 指導計画の工夫

- ①「言語活動一覧表」及び「言語活動具体化一覧表」をもとにした言語能力の明確化
 - ・指導計画において、育成したい資質・能力を明確にし、適した言語活動を設定する。
 - ・単元の出口における、目標を達成できたといえる生徒の姿を教師が具体的に描く。
- ②生徒が魅力や書く必然性を感じる題材の工夫
 - ・学校や地域の特性、生徒の実態に応じて、設定する題材を工夫する。
 - ・「書きたい」「書いてみたい」と思える題材の工夫をする。

(2) 指導・援助の工夫

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導過程の工夫
 - ・ペアや小集団、及び、小集団の編成等を工夫する。
 - ・対話や議論の目的や視点を明確にするとともに、展開や表現の仕方を確認・吟味する学習過程を位置付ける。
- ②「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、個に応じた指導・援助の充実
 - ・予想される困り感を解消するための、モデル提示や指導・援助の方法を考える。
 - ・得意な生徒が、より多面的、客観的に思考できるような指導・援助の方法を考える。

(3) 評価の工夫

- ①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方
 - ・生徒が自分の習熟の度合いを効果的に捉え、評価できる場を設定する。
 - ・教師にとっても生徒にとっても明確で変容を捉えやすい評価の方法を工夫する。

C 読むこと部会 令和3年度の研究の方向

読むこと部会部長 岐阜市立岐阜中央中学校 北原章大

【令和3年度 中国研 研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に読むことの学習に取り組むことができる生徒
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを活用できる生徒
- ◎言語活動を通して形成した自分の考えを、根拠をもとに適切に伝え合うことができる生徒

【令和3年度 読むこと部会 研究主題】

文章を主体的に読み深め、自分の考えを伝え合う生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程に重点をおいた「読むこと」の指導の工夫～

【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、単元及び単位時間において意図的かつ効果的な言語活動を位置付けたり、付けたい力を明確にしたりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や言語活動のなかで読み取ったことをもとに形成した自分の考えを、根拠をもって適切に伝え合い、豊かに表現する力を育むことができる。

【研究内容】

(1) 指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と中国研ホームページを活用した情報の共有
 - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
 - ・「読むこと」における実践の黒板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積

②学ぶ魅力・必然性のある教材開発

- ・「読みたい」「読まなければならない」といった学びに向かう力を大切に教材開発・題材開発の工夫 ※「考えの形成、共有」の学習過程を重視した指導計画を作成する

(2) 指導・援助の工夫

①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

- ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫 ※付けたい力を明確にした言語活動の設定
- ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（交流の意図や視点の明確化）

②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫

- ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造

(3) 評価の工夫

- ・単位時間、単元の終末に「確かに読み取れた」「考えが深まった」という実感をもつことができる場の設定

言語文化部会 令和3年度の研究方向

言語文化部会 部長：各務原市立蘇原中学校 河合 のぞみ

1 今年度の研究方向

中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

《言語文化部会として目指す生徒の姿》

- ・ 社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ・ 国語の知識や技能を社会生活において様々な場面で主体的に活用する生徒
- ・ 古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒

《言語文化部会 研究主題》

言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成

～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

《研究仮説》

- ・ 語彙の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚を豊かにする言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。
- ・ 古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材分析を行い、社会生活とのつながりを意識させる言語活動を設定すれば、古典に親しむ生徒を育成することができる。

《研究内容》

① 「言葉への自覚」を高める指導計画の工夫

(1) 語彙の量を増やし、語句についての理解を深めるための指導計画の工夫

- ・ 辞書に書かれたその言葉の意味を理解するだけにとどまらないよう、単位時間を通して獲得させたい・気付かせたい言葉を明確にした指導計画を作成する。

② 「言葉への自覚」を高める指導援助の工夫

(1) 言葉そのものを学ぶ指導・援助の工夫（辞書の活用・語彙の定着）

- ・ 主体的に言葉を獲得する姿を目指し、言葉と言葉とのつながりやその役割に気付かせる指導・援助を明確にする。

(2) 3領域との関連の中で、語句の量を増したり、語句の理解を深めたりする指導の工夫

- ・ 言葉の知識をそれぞれの領域と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域において言葉の知識を獲得できる指導の工夫を行う。

③ 評価の工夫

(1) 生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる場の位置付け

- ・ 言葉に対する正しい根拠を基にして、自覚的に用いていくことができる活動の場を設定する。

『「言葉への自覚」を高める』の定義

→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

令和3年度 「ぎふこくご」実践論文の募集（要項）

岐阜県中学校国語科研究部会では、「ぎふこくご賞」として、岐阜県内の中学校国語科指導に関する実践論文を募集しています。岐阜県には、先生方の優れたご実践や先進的なご実践、新たな方向へと挑戦されているご実践が数多くあると思います。そうしたご実践を、県内の国語科部員の方々に広め、互いに学び合うことで、岐阜県の国語教育がさらに質の高いものになっていくことを願っています。

<趣 旨> 各校で日々実践されている、岐阜県内の中学校国語科指導の優れた実践、意欲的な実践を広めていくことで、国語科指導の在り方について学び合い、指導力の向上をめざす。

<観 点> ・国語教育の今日的な課題に応える提案性
・子どもの実態に基づいた仮説、研究内容、検証

<主 催> 岐阜県中学校国語科研究部会

<募集領域> 中学校国語科指導，図書館指導に関する実践

<募集部門> ○論文部門 ○ダイジェスト部門（新しい部門です）

<応募資格> 岐阜県内の中学校，特別支援学校に勤務する教職

<形 式> ・2部門ともA4サイズで，体裁等は問わない。資料等の添付も可。
・論文部門のページ数は自由。
ダイジェスト部門は指導案や資料+A4一枚の実践のまとめ。

<応募先> 〒509-0304 加茂郡川辺町中川辺1367
川辺町立川辺中学校 中国研 研究副総括 細江 隆一
アドレス：c40913@mx.gifu-net.ed.jp

※応募していただく論文は各地区の教育実践論文に応募したのと同じものでも結構です。

※メールで送っていただくのも可です。その場合はPDFで送ってください。
CDで送っていただくのも結構です。

<応募締切> 令和4年1月17日（月）必着



多くの先生方の応募をお待ちしています！！



(令和2年度)

収支決算書

部会名 支部	岐阜県中学校国語研究部会	部会 支部 No.	10
部会長 支部長	安田 英士	職印	印

(収入)

科 目	予 算 額		収 入 額
	当 初 予 算	更 正 予 算	
会 費	283,960	278,380	278,380
補 助 金	0	20,000	20,000
雑 収 入	146	0	0
繰 越 金	394	394	394
計	284,500	298,774	298,774

(支出)

事業	科 目	予 算 額		支 出 額	予 算 残 高	
		当 初 予 算	更 正 予 算		当 初	更 正
研究大会事業	報 償 費				0	0
	旅 費				0	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費				0	0
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費				0	0
	通 信 運 搬 費				0	0
	使用料及賃借料				0	0
	小 計	0	0	0	0	0
研究調査事業	賃 金				0	0
	報 償 費				0	0
	旅 費	154,000	133,964	0	154,000	133,964
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費				0	0
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費				0	0
	通 信 運 搬 費		7,400	7,400	△ 7,400	0
	使用料及賃借料				0	0
	分 担 金				0	0
	助 成 金				0	0
積 立 金				0	0	
小 計	154,000	141,364	7,400	146,600	133,964	
図書	図 書 購 入 費				0	0
	小 計	0	0	0	0	0
研究成果刊行事業	報 償 費				0	0
	旅 費				0	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費				0	0
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費	130,500	157,410	157,410	△ 26,910	0
	通 信 運 搬 費				0	0
	使用料及賃借料				0	0
小 計	130,500	157,410	157,410	△ 26,910	0	
総 計	284,500	298,774	164,810	119,690	133,964	

(令和3年度)

予 算 書

部 会 名 支 部	岐阜県中学校国語研究会	部 会 No. 支 部	10
部 会 長 名 支 部 長	石橋 佳之		職 印 印

(収 入)

科 目	予 算 額	積 算 内 訳
会 費	278,380 円	620円×449人
大会助成金		
雑 収 入	656	
繰 越 金	133,964	
合 計	413,000 円	

(支 出)

科 目	予 算 額	積 算 内 訳
研究大会事業	報 償 費	円 × 時間 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 回 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 = 0
	印 刷 製 本 費	円 × 部 = 0
	通 信 運 搬 費	
	使用料及賃借料	円 × 日 = 0
小 計	0	円
研究調査事業	賃 金	円 × 人 = 0
	報 償 費	円 × 時間 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 日 = 0
	旅 費	1400 円 × 90 人 × 2 回 = 252000
		円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	2,000
	食 料 費	円 × 人 × 回 = 0
	印 刷 製 本 費	円 × 部 × 回 = 0
	通 信 運 搬 費	
	使用料及賃借料	円 × 日 = 0
	分 担 金	
助 成 金		
積 立 金		
小 計	254,000	
図 書	図 書 購 入 費	円 × 冊 = 0
	小 計	0
研究成果刊行事業	報 償 費	円 × 時間 × 人 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 = 0
	印 刷 製 本 費	159,000 300 円 × 530 部 × = 159,000
	通 信 運 搬 費	
	使用料及賃借料	円 × 日 = 0
小 計	159,000	
合 計	413,000 円	

令和3年度 情報部 活動の見通し

<http://kokugo.chu.jp>

1 2年度の活動について

- ・新型コロナウイルス感染症予防対応のため、情報部の活動はHPの保守を中心とし、他はほぼ停止。
- ・NHK杯全国中学校放送コンテストは、全国大会が中止されたため、岐阜県大会も開催を中止した。
- ・「気になって眠れない」は、119～132稿までアップした。
(楽しみに読んでくださっている方もいらっしゃると思っている。)

2 3年度の活動の方向

- (1) 代議員会・研究部会の資料の公開(PDF)
- (2) 研究部・編集部等の活動成果の掲載協力
- (3) 飛騨大会広報活動(HP等)・研究集約の掲載
- (4) NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会運営
- (5) コンピュータ活用講座開催(状況によりオンライン開催)
- (6) 中国県サーバーの契約の更改

(1) について

主務と協議の上、掲載。アーカイブ機能を有するため、永続化したい。

(2) について

これまでの経過の上に継続する。

(3) について

研究部に全面協力して行う。

(4) について

- ・全国大会の日程その他

[予選] 2021年8月7日(土)、8日(日) — 非公開

[決勝] 2021年8月17日(火) — 公開(9:00～17:00)

※決勝の審査会場 — 千代田放送会館2Fホール(東京都千代田区紀尾井町1-1)

参加申し込み 2021年7月30日(金)必着

■岐阜県大会について

日程・会場……未定(元年度までは7月上旬、NHK岐阜放送局にて開催)

参加方法……事前申し込みの上、データ投稿により受け付け。(学校アドレスから)

審査員……未定(例年は、NHK職員、中国県会長、主務、研究部長、情報部長等)

(5) について

- ・全県に投げかける。夏季・秋季に開催する。オンライン開催も、可能であれば検討する。
- ・内容はEXCELを中心に扱う。テスト問題作成や成績処理に活用できる関数を課題とする。

(6) について

- ・サーバーは現在、レンタルサーバーを利用している。今後のため、研究会での契約に移行する。

